




発行：神戸大学大学院医学研究科小児科 こども急性疾患学部門

神戸こども初期急病センター



2011年 1月受診者数：3107人

訴え

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

- 1. 発熱 : 2047人 (1760人)
- 2. 咳 : 1086人 (160人)
- 3. 鼻水 : 821人 (32人)
- 4. 嘔吐 : 772人 (416人)
- 5. 下痢 : 365人 (81人)

疾患頻度

- 1. 急性上気道炎・咽頭炎 : 896人
- 2. インフルエンザ : 599人
- 3. 感染性胃腸炎 : 574人
- 4. 気管支炎 : 108人
- 5. 水痘 : 76人



今月のワンポイント！



1月に入り寒い日が続きました。神戸こども初期急病センターでは、年末年始に朝9時～翌朝7時まで診療を行い、連日300人近い患者さんの受診がありました。受診者総数3107人の患者さんからの訴えで最も多かったのは、先月と同じように発熱でしたが、インフルエンザの患者さんが急増しています。兵庫県感染症情報センターの発表でも、1月に入り急速にインフルエンザ患者数の増加がみられます。感染症の流行状態を表すために、「例年あたりの患者数」という表現を使い、30人を超えると警報レベルとなりますが、1月最後の週は兵庫県全体で27.8人、神戸市で28.3人でした。

1月はインフルエンザの患者さんの95%以上がA型でした。感染症情報センターの発表でも、B型は2%ということです。A型の中には、新型とA香港型、両者の流行がみられます。通常の医療施設の検査では、その区別はできませんが、感染症情報センターからの発表では、90%以上がA型です。

インフルエンザに罹らないように予防することと、もし罹った場合には、それを拡げないようにすることも大切です。手洗い、うがい、マスクの着用、咳エチケットなどをきっちりしましょう。そして、疑われる場合は早めに医療機関を受診しましょう。

